

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 2月号

2019年2月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：大城 将平

(沖縄リハビリテーションセンター病院)

## 研修報告

### 平成30年度地域包括ケア市町村支援事業 インセンティブ交付金にふりまわされないための地域マネジメントセミナー

平成31年1月4日  
那覇市立病院 医療福祉相談室 樋口 美智子

平成30年12月20日(水)沖縄県主催のセミナー(講師:岩名礼介氏、於:沖縄コンベンションセンター)に当協会から樋口美智子と安慶名真樹が参加しました。産業界に限らず、医療・介護界でも、「費用対効果評価」が求められるようになりました。「保険者機能と地域マネジメント-保険者機能強化推進交付金・地域包括支援センター評価指標の意味を考える-」では、市町村は保険者として増大する医療費・介護費への対応に苦慮しているのですが、厚労省は保険者機能強化推進交付金を、市町村が実施している地域支援事業等を点数化して交付する仕組みにしています。そのため市町村は所謂地域包括ケアシステムをPDCA サイクルで廻して構築しなければならない。そのためには、従来の保険者機能(三大事務:保険料徴収・認定・給付)や事業計画策定・地域密着事業者指定・給付適正化のみではなく専門職の連携(関係者コーディネーション)や地域づくり(保健・健康増進・地域福祉含む)が必須であることが強調されました。

一方、地域包括ケアシステムの要であり第一線として位置づけられている地域包括支援センターには「地域ケア会議開催計画」や「個別事例検討」「市町村への提言」等の施策が明示され、評価指標として、医療関係者との合同の事例検討会や講演会・勉強会の開催等も含まれていること。そして、最も重要なのは「目標・目的・ゴールを文章化して共有する」こと。最後に「何かを成し遂げるには「ビジョン」とロジカルな考えが必要である」ことから「脳梗塞で回復期から在宅に戻りたい人がなぜ、最期の時まで在宅生活を

#### ◆ contents ◆

平成30年度地域包括ケア市町村支援事業  
セミナー参加報告(那覇市立病院 樋口)・・・1P

平成30年度市町村支援アドバイザー派遣等事業  
参加報告(大浜第二病院 安慶名)・・・2P

平成30年度沖縄県入退院支援連携デザイン事業  
在宅医療・介護連携に係るモデル事業<事例検討  
研修会>参加報告(沖縄協同病院 長)・・・3P

在宅医療・介護連携(中部圏域)報告  
(北中城若松病院 香村)・・・4P

自主勉強会報告・・・5P

新入会員紹介・・・5,6P

部会からのお知らせ 研修部だより・・・6P

1月理事会運営会議録・・・7,8P

継続できないのか？」という事例で個々にロジックを考えるワークを行いました。

専門職は、主に地域マネジメントとしての保険者機能に参画することになるのですが、「在宅医療・介護連携（70点）の指標は、実態課題の把握、取組実施と PDCA、情報共有ツール整備普及、相談窓口、参加型研修、入退院支援、入退院関連加算取得率になっています。事業評価は、公平性・透明性の観点が必要なのですが沖縄県入退院支援連携デザイン事業の効果評価や、個別支援が中核である私達MSWの実践は、何をもって効果が評価されるのだろうと、改めて考えさせられた研修でした。

---

## 平成 30 年度市町村支援アドバイザー派遣等事業 多職種コンソーシアム実践研修会に参加して

平成 30 年 12 月 24 日  
大浜第二病院 安慶名 真樹

---

H30 年 12/24(月)クリスマスイブに開催された、県理学療法士協会主催、平成 30 年度市町村支援アドバイザー派遣等事業、多職種コンソーシアム実践研修会に参加したので報告します。

午前中は「疾患別アプローチによるケアマネジメントの有効性と ICF モデルに照らした地域ケア個別会議の専門職の役割と機能について」沖縄県統括アドバイザーの松川竜也氏による講義がありました。ケアマネジメントの標準化の政策は、2016 年から 10 年間で整備されようとしています。松川氏によると、ケアプランは極めて個別性が高いため標準化は困難、しかしケアマネジメントの疾病による悪化については、それなりに共通する部分があり標準化が図れ、知見の標準化やケアマネジメントの質向上、多職種間の連携促進を期待できるとのことでした。アセスメントの重要性と、アセスメントの視点・課題の明確化のために、専門職とすり合わせることの必要性について講義されました。アセスメントには、利用者の個別性＋疾患別理解が欠かせないことも印象的でした。

午後は県内各専門職団体（医療ソーシャルワーカー協会、介護支援専門員協会、栄養士会、歯科衛生士会、薬剤師会、言語聴覚士協会、理学療法士協会、作業療法士協会）の代表者（各 7～10 人）が助言者として参加し、地域ケア会議を想定し模擬事例検討を行いました。地域ケア会議に参加する専門職における助言・指導に関しても、標準化を目指します。事例概要が説明された後各専門職団体から事例対象者に関する質問をグループ討議しました。なぜそれを確認するのか、根拠を持った質問をします。専門的視点から質問は、まさにそれがアセスメントなのです。質問に答えてもらい、課題と解決に向けた助言をします。他の職能団体と重なる部分は共有・協働必要となりえること、職能ごとの連携を踏まえつつ、各職能団体として自分たちの専門領域としてはどの課題を担うべきなのか、専門職的視点からグループ討議し助言をまとめました。

地域ケア会議を据えたこのような研修会に、医療ソーシャルワーカーの職能団体が助言者として招かれたことに、「私たちの専門性をアピールするいい機会だ！」と意気込んで参加しましたが、研修終了後は参加者全員、使いすぎた頭から湯気が出ていました。この作業を通して、「SW の専門的視点」を意識しアセスメント・発言することに意識を集中し、1 日の研修を通して訓練する機会だったと感じました。各専門職からの多角的視点が生活者である本人にとって本当に有用になるように、私たち専門職に寄せられる期待の高さを実感すると同時に、責任の大きさも痛感する研修でした。

---

## 平成 30 年度 沖縄県入退院支援連携デザイン事業 在宅医療・介護連携に係るモデル事業＜事例検討研修会＞参加報告

平成 31 年 1 月 18 日  
沖縄協同病院 地域連携課 長 原野

---

表記研修は平成 31 年 1 月 7 日、公立久米島病院にておこなわれ、当院でも会場設営しスカイプでネット接続し同時開催となった。

内容は公立久米島病院のMSW新垣美鈴さんの提供した事例を用いて、5～8 名で 7 グループ(久米島会場 3 グループ、当院会場 4 グループ)を編成し、グループスタディと全体共有をおこなった。その後、沖縄大学の富樫八郎先生の「“支援困難事例”を振り返る-“価値に基づいた援助について”-」があった。

MSW新垣さんからは「介護者不在の末期がん患者の希望と地域住民の不安のはざままで支援した事例」の提供から、支援者が本人と地域の関係構築をどのように援助することができたのか？支援経過を振り返り、「最期まで島で生きる」ことができる地域づくりを考えたいとの目的があることも説明がされた。グループスタディでは、1.地域住民の協力を得るための支援策(具体的に取り組み可能なこと)2.多職種の協働支援の在り方①久米島でできていること②取り組みそうなこと、を各グループで検討した。

地域住民がクライアントの意思、かかえる疾病(末期がんや認知症)、援助内容について理解をできる様に公開講座の開催や支援者カンファレンスへの参加依頼などの意見が挙げられた。個別の事例から地域の抱える潜在的な課題にも目が向けられるような取り組みが提案された。分からないことを理解することで不安が軽減し、現実的な協力体制の構築にも役立つのではないかと感じた。

多職種連携は比較的密に取れている側面も多く、地域の関心が高く、不安を訴える地域住民もいるが、見守り体制に協力的な地域住民がいること、公的機関との連携が濃いこと、今後はタクシー会社や新聞販売店、ヤクルトのお姉さんたちともつながっていけないのではないかとという意見もあった。

富樫先生の講義からは、クライアントの日常生活の成り立ちを理解することで支援困難事例をとらえ直し、クライアントの対処能力を高めながら社会資源の活用を支援することの重要性を確認した。地道にミクロ、メゾ、マクロレベルでソーシャルワーク介入を実践していく事が事例のテーマにもつながると感じた。



平成30年度 在宅医療・介護連携推進事業に参加して  
（広域連合区 西原町・中城村・北中城村）編

平成30年11月29日  
報告 香村真範（北中城若松病院）

昨年、11月29日、北中城村社会福祉協議会を会場に、「入退院連携における顔と顔の見える関係づくりを見える化しよう！」というテーマで、ヘルパー（2名）、医師（2）、ケアマネ（30）、介護福祉士（3）、看護（33）、管理者（1）、事務職（1）、社会福祉士（7）、柔道整復師（1）、相談員（10）、保健師（1）、薬剤師（3）、理学療法士（1）と100名近い参加がありました。この地域の医療・介護従事者の意気込みが感じられます。

今回の目的として①医療機関と介護サービス事業者等の連携を推進する。②地域の課題を抽出し、対応策等を検討し、地域の対応策を作成する（各町村に分かれたグループワーク）。

初めに、西原町役場 保健師 熊本浩平氏より、当事業の概要や、3町村の高齢者を取り巻く環境（人口動態、介護保険認定率、要介護の原因疾病等）、関係性（顔の見える関係や連携ルールは概ね良好、医療資源は充実している、入院日数の短縮、病院（病棟）機能の明確化、介護人材の不足等）を説明し社会情勢の変化や地域の実情の共有を図りました。

ハートライフ病院 望月さんより、医療機能別に急性期・回復期・包括ケア病棟・療養病棟・緩和ケア病棟の概要と役割、事例を通して流れを説明し共有することができました。実際にケアマネ等から「病院（病棟）にはそれぞれ役割がわかれていて入院できる対象が異なるんだ」等の声もありました。

居宅介護支援事業所 盛楽 上原智恵子氏から、利用者の思う生活を見据え、様々な不安や課題を聞き取り予測し迅速に対応できることで退院時の障害を低くすることにつながる。そのために、医療機関への情報提供で特に大切にしていることとして「利用者の暮らしぶりをきちんと知らせ退院後の生活を想像できるように務めています」とありました。また、事例を用いて在宅でのケアマネの視点や、退院支援を共同に行う際のポイントとそれぞれの役割を確認することができました。

あいわクリニック伊佐真之先生より、かかりつけ医としての機能を果たしていく中で、患者・家族からだけでなく、各職種からの日々の情報が診療や文書等の作成には大切となってくる。特に退院の際の治療内容や経過、薬剤表記等がきちんと書類でもらえると診療を引き継ぎ地域で患者を支えることにつながります、とありました。

最後に、地域ごとに分かれ日々連携を担っている者同士でグループワークを行い、入退院業務、在宅介護の実際の課題を確認し対応策について話し合うことができました。私の班のアンケートでは、医師や病院（対応する人）によって敷居が高い、連絡や情報共有の手段が異なる、病院からカンファレンスや退院連絡が無い等耳の痛いご意見もいただきました。また、多くの皆さんから、普段連携している者同士で研修できてとてもよかった、それぞれが見ているところを感じることができた、医療分野の流れを知ることができた等の声も多くありました。次回は、1月に住民向け「あなたの人生最期をどうデザインしますか？～知る・話す・決める はじめの一步～」と題し準備中です。

## 自主勉強会報告

### めだかのホームルーム

平成 31 年 1 月 16 日(水)  
ちばなクリニック 医療相談室 宮城 幸之佑

1 月 16 日(水)沖縄協同病院にて行われた「めだかのホームルーム」についてご報告します。参加者 11 名で事例検討を行いました。

今回、沖縄協同病院の松永氏に、「医療的ハイリスクや様々な生活課題を抱える妊婦への支援」という事例を提供していただきました。事例は、20 代前半の妊婦で、県外出身で県内に頼れる方がいない。借金返済や生活のため流産の可能性が高い状況を理解しつつも、接客業(風俗)を辞めることができない。里帰り出産を希望しており、一つ一つ必要な手続きや支援に時間を要したというケースでした。検討事項として、①クライアント自身が問題や危機と感じていない状況で、さらに特殊な環境におかれている場合の支援方法、②周産期のケースを担当する度に、支援ではなく調整の認識が強く不安を感じている、③他に考えられるアプローチ等についてです。

色々な意見がありました。その中でもクライアントとワーカーの価値観に差が生じた場合、「最低限の危機管理を意識しクライアントのペースに合わせる」とことや困った時に相談できるように関わる、「強み」に目を向ける、調整もソーシャルワークに必要である等再認識することができました。

とても貴重な事例を提供していただいた松永氏ありがとうございました。お疲れ様でした。

## 新入会員紹介

所 属: 沖縄県立南部医療センター こども医療センター 地域医療連携室

氏 名: 上原 佐智

### 自己紹介

はじめまして、今年度より沖縄県立南部医療センターこども医療センターに入職致しました上原佐智です。大学を卒業し飛び込んだ医療福祉の現場は、入職して 10 ヶ月が経とうとしていますが、未だに日々の業務についていくのがやっとです。しかし、その中でも医師や看護師・地域の方と連携し患者さんの希望を叶えられたときには達成感ややりがいを感じることができました。今後も日々の業務やめだかの学校・研修等を通して MSW 教会の皆さんからもたくさんのことを学び吸収し、楽しみながら業務に励みたいと思います。これからも宜しくお願いします。

所 属: 沖縄県立南部医療センター こども医療センター 地域医療連携室

氏 名: 玉城 優花

### 自己紹介

初めまして、4月に県立南部医療センターこども医療センターへ入職致しました玉城優花と申します。入職して約 10 ヶ月が経ちますが、毎日があっという間に過ぎていき、入職したばかりの頃がつい最近のように感じます。

小児科の相談員として働きたく、他病院では経験できない南部医療センターへの入職を希望しました。現在小児科の相談員として働けていることに日々喜びを感じながら仕事をしています。入職した頃は初めての経験ばかり、また学生の頃は成人中心の勉強をしていたため、小児の退院支援については知らないことばかりで不安な毎日でした。先輩方や他職種の方に支えられ、どのような支援ができるか日々模索しながら業務に取り組んでいます。

小児科の相談員として働けていることに感謝し、日々精進していきます。研修等でお会いし話をすると、皆さまがそれぞれの場所で頑張っている姿に刺激を受け活力となっています。今後も皆さまと関わることが多くあると思いますが、宜しくお願い致します。

### 部会からのお知らせ

<b>2月研修部だより</b>	
<b>めだかの学校(おおむね経験年数3年未満)</b>	
テーマ	2月 ⇒ 調整中 3月 ⇒ 事例のまとめ方、作成について学ぶ 講師: 安慶名真樹氏(大浜第二病院)
日時	
会場	
参加費	無料
問い合わせ	大浜第二病院 医療福祉課 謝敷
<b>めだかのホームルーム(おおむね経験年数3年以上)</b>	
テーマ	次年度の活動計画 / 新人教育報告
日時	H31年3月6日(水) 19:00~
会場	大浜第一病院
参加費	無料(飲食代100円)
問い合わせ	沖縄協同病院 地域連携課 松永
<b>めだかの放課後(経験年数5年以上)</b>	
テーマ	1月は休会 2月に実施予定
日時	
会場	中頭病院
参加費	無料(飲食代200円)
問い合わせ	大浜第二病院 医療福祉課 當銘
<b>OGSV</b>	
テーマ	ソーシャルワーク学会予演会
日時	平成31年2月13日(水) 18:30~20:00
会場	那覇市立病院
参加費	無料
問い合わせ	那覇市立病院 樋口
平成31年1月23日付 発行 香村(北中城若松病院)	

## 1月理事運営会議録

### MSW 協会理事会 1月議事録

平成31年1月21日（月）18:30-21:00

場所：県総合福祉センター

【参加者】樋口会長、新垣副会長、伊禮、長、望月、香村、石郷岡（記録）

【欠席者】又吉、當銘、秦、安慶名

#### 【各部報告】

（研修部） ※別紙2月研修部日より参照

- ・めだかの学校：テーマ『事例作成について学ぶ』  
講師候補 大浜第二病院 安慶名さん 研修部長から打診
- ・めだかのホームルーム：テーマ『次年度の活動計画／新人教育報告』
- ・めだかの放課後：テーマ『未定』
- ・OGSV：テーマ『ソーシャルワーク学会予演会』
- ・研修部会 次年度活動の検討会、委員選出について
- ・2月23日（土）九州教育部会 出席者 香村理事  
テーマ：沖縄大会中堅者研修のふりかえり  
ラダーに関する研修
- ・おきなわ大会の収支報告→まもなく終了

（広報部）

- ・はいさいワークの決済方法  
広報部部長決済とする。

（社会活動部）

- ・今回は報告なし

#### 【那覇市チャージんじゅう課との意見交換会】

- ・連絡票の試験的活用の結果、要介護認定申請の受付と調査の日程調整がスムーズになり、短縮化した。  
次年度は他の医療機関（アンケート回答機関）も利用できるようにすることについて承認された。  
連絡票の使用には説明会が必要。2月中旬に実施する。

#### 【入退院支援デザイン事業】

- ・次年度の事業について県高齢者福祉介護課との話し合い。（樋口、新垣、當銘、安慶名）  
県としては次年度以降も事業継続、本協会にも事業委託したい考え。  
→承認

・事例検討研修会（2回目）

日時：1月28日（月）13：30～16：30

場所：公立久米島病院

サテライト会場 沖縄協同病院（中継のみ）

講師：松本佳子氏（東京大学 高齢者総合研究機構）

内容：在宅医療・介護連携におけるロジックモデルの活用例  
～「入退院支援連携」に関する事業展開を中心に～

・3月2日（小原先生）、3月9日（猿渡先生）の研修→講師と詰めてゆく

【その他】

・2018年度 ハート相談センター全国担当者会議 2月24日（日）11：00～  
当協会にも参加要請あり。

・沖縄県ソーシャルワーカー学会・社会福祉公開セミナー実行委員会報告（樋口）

・医療・介護福祉情報の専門誌「きらサポ」取材依頼→承認

・2月の議題 次年度の理事体制、部会体制見直し

次回理事会 2月18日（月）18：30～ 司会：樋口、書記：伊禮、連絡：石郷岡

◆編集後記◆

段々と寒さが増し沖縄も冬感が出ておりますね。あっという間に過ぎ去ってしまう沖縄の冬を味わいましょう。

ちまたではインフルエンザが猛威を振るっております。手洗い・うがいと体調管理は万全に(#^.^#)

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会のホームページ  
<http://www.msw-oaswhs.jp/>